

## 平成27年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	唐津市立相知中学校		
2 所在地	唐津市相知町相知 2482		
3 校長名	脇山 雅文		
4 学級数 児童生徒数	7学級 228人	5 実施学年 児童生徒数	2年 3年 79人 78人

### 6 取組のねらい

障がいがあるからないから、ではなく、「年齢、性別、身体的能力等の個人の特徴にかかわらず、すべての人にとって生活しやすい環境を考えよう」というテーマのもと、学校生活や社会生活の中で多様な個性や違いをお互いに理解して、相手を尊重する心や態度を養う、ことを目的としている。

### 7 取組の実際

(1) 福祉体験活動（3年） ～作礼荘訪問を通して～

①ねらい 高齢の方と接したりその立場に身を置いたりすることで、「福祉」への関心を深め、ふれあいの中から自分ができることが何か、を考える。

②日 時 平成27年8月28日（金） 9：30～11：30

③場 所 特別養護老人ホーム 「作礼荘」



(2) 車イス体験活動・高齢者体験活動（3年）

①ねらい 自分たちの学校を車イスに乗車して移動したり、操作したりするような簡易的な介護体験をすることや、手足におもりをつけて高齢者の体の状態を想像したり不便さを実体験することによって、車イス利用者や高齢者を同じ地域に住む身近な隣人として理解し、最終的には生徒自身が地域のバリアフリーやユニバーサルデザイン化への意識を高められるようにする。

②日 時 平成27年7月9日（木） 5・6校時

### ③生徒の感想から

・今日の体験をしてみて、高齢者の方の大変さがよくわかりました。目や手や足が思い通りに動かないと、自分で思っているより自由を奪われました。車イスでの移動はとても難しく、乗っていて不安でした。1人で動かすともっと動きづらくて、曲がる場所や坂道で転倒しないか、怖かったです。

私が感じた動きづらさや不安な気持ちを、高齢者の方や車イス利用者の方はいつも感じていることを知りました。自分が体験した時の気持ちをずっと忘れずに、助けたり見守ったりしていきたいと思いました。

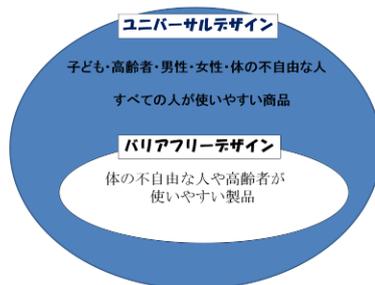


### (3) ユニバーサルデザインを取り扱った授業 (2年)

家庭科の授業の中で、身近にある具体的なUD製品を見たり触れたりすることで、その効果や必要性を実感することで、関心を深めさせることができた。



**ライトタッチ水栓** ボタンを軽く押すだけで水やお湯が出る。ぬれて滑りやすい手でも確実に操作できる。



#### ユニバーサルデザイン 7原則

- 1: 誰もが公平に使うことができる
- 2: 使う時の自由度が高い
- 3: 使い方が簡単ですぐにわかる
- 4: 必要な情報がすぐにわかる
- 5: 使い方を間違えても危険ではない
- 6: 体への負担が少なく、弱い力でも使える
- 7: 誰でも使える大きさや空間になっている

## 8 取組の成果と課題

今回の学習や体験を通して、生徒たちは日常の生活の中に、高齢者や身体に障がいをもっている方々にとって生活しにくい状態が多く存在していることを実感することができた。さらに高齢者や障がい者だけでなく年齢、性別、身体的能力等の個人の特徴にかかわらず生活しやすいようなユニバーサルデザイン化が必要であることに気づかせることができた。また、「心のユニバーサルデザイン化」ともいふべき思いやりの心や実際の行動が、実は重要であることを学ぶことができた。今後は生徒の思いやりのある心が、具体的な行動や実践に結びつくようにしていきたい。